

平成 26 年度 鹿背山城なんでも知ろう連続講座⑥

鹿背山城のろし大実験 実施報告書

発行：木津の文化財と緑を守る会 平成 27 年 8 月

平成 26 年度 鹿背山城なんでも知ろう連続講座⑥

鹿背山城のろし大実験 実施報告書



鹿背山城主郭跡にて『のろし』を揚げる 平成 27 年 2 月 1 日午前 11 時 11 分

発行：木津の文化財と緑を守る会 平成 27 年 8 月

目次

・目次	1
・ごあいさつ（木津の文化財と緑を守る会会長 岩井照芳）	3
・はじめに・・・『鹿背山城のろし』実施までの経緯	4
・『鹿背山城なんでも知ろう連続講座⑥』当日のスケジュール	7
・『鹿背山城のろし』のろし揚げ報告書（鹿背山城跡）	10
・『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察報告書凡例	11
①多聞(たもん)城跡	12
②奈良阪	13
③州見(くにみ)台・梅美(うめみ)台	14
④泉木津(いずみこづ)跡	15
⑤城址公園（木津上ノ山城跡・遺跡名木津城跡）	16
⑥染山(そめやま)城跡	18
⑦吉田城跡	19
⑧岩船寺	20
⑨加茂町兎並(うなみ)	21
⑩海住山寺	22
⑪瓶原(みかのはら)	23
⑫和束(わづか)町木屋	24
⑬鳶ヶ(とびが)城跡	25
⑭上狛集落	26
⑮稲屋妻(いなやづま)城跡	27
⑯吐師(はぜ)浜跡	28
⑰下狛城館跡	29
⑱口駒ヶ谷(くちこまがたに)城館跡	30
⑲内田城跡	31
(番外)精華町樋ノ口	32
(番外)奈良市川上町	33
・『鹿背山城のろし』のろし揚げおよび観察写真集	34
・資料① のろし揚げの資材について	
・資料② 鹿背山城なんでも知ろう連続講座⑥ 広報チラシ	
・資料③ メディア報道記事	
・資料④ 講演レジュメ『狼煙の意義とおもしろみ』 講師：中井均先生	
・資料⑤ 鹿背山城跡および全観察地の位置図	
・編集後記	

ご 挨拶

当会の鹿背山城に関する26年度の事業は、講演会2回と鹿背山城の城見学会や城整備及び、同時代の旧山城町の東山城と鳶ヶ城の見学会を行いました。それに加え数年前から企画しています狼煙大実験は最大の事業でした。この事業の目的は、この城を盛り上げ「世に出す」ことによって国指定史跡を目指すことと、中世城郭間の伝達手段として鹿背山城から上げる狼煙がどの範囲から確認できるのかを実験で示すことにあります。

前年度には、鹿背山城と多聞山城及び興福寺を結ぶ「中世の道」の復元を行い、鹿背山城から多聞山城までの道を実際に踏破し、人や馬を使った伝達手段の確認を行いました。今回の狼煙大実験はそれに続く第2段であります。

鹿背山城は複数の城郭研究者によって縄張り調査され、6年前からは発掘調査も行われてその実態が徐々に分かって参りましたが、築城時期は今もって不明であります。

また、最初の城主は大和一国と相楽郡を支配した興福寺で、おそらく鎌倉時代から長く城主を続けてきたと思われるが、永禄3(1560)年ごろ松永弾正久秀が興福寺から奪い取って、城の最後の10年余だけ城主になったと考えられます。

この城の築城意義は城郭史の常識を破り「武士が造った城」でなく、「寺が造った城」であることです。また、築城目的はこれまで言われてきた大和の北の守備や、敵の木津川渡河を見張る軍事面だけでなく、経済面でも非常に重要な目的があったと考えられます。

それは、大和一国を経営する興福寺にとって、大和と国外とを結ぶ交通や物流の拠点である泉津(上津・^{いすみの}泉木津・吐師)を敵に抑えられれば、物資の搬出入はほとんど止まり(大和川は亀瀬で船の通行はできない)物流面で死活問題に発展する可能性が大いにあることです。

そのうえ、京都との陸路も木津で遮断された場合大和に繋がる道は遠回りになり、水陸交通の要衝泉津を抑えることは最も重要な目的の一つであると思います。

これらのことから、大和を支配する興福寺にとって鹿背山城の存在意義は大きく、伝達手段も正確・迅速でなければならなかったと考えられるため、26年度の狼煙大実験では奈良から直接見えなかった狼煙を、27年度は如何にして興福寺や多聞山城に届くかを実験したいと思っています。

同時に狼煙という視覚だけでなく、大太鼓をたたくという聴覚での実験も27年度は行ってみたいと思っています。

平成27年7月12日

木津の文化財と緑を守る会
会長 岩井照芳

はじめに・・・『鹿背山城のろし』実施までの経緯

平成 24 年度

4 月

鹿背山城の存在を世の中に広く知ってもらうことを目的に、城跡の整備にとどまらない事業を行うため、鹿背山城プロジェクトチーム(以下 PT)を立ち上げ、事業案の一つとして、多聞城、信貴山城、龍王山城(いずれも奈良県内)など鹿背山城と同じく松永久秀ゆかりの山城跡との狼煙による交流が提案された。

8 月 16 日

PT の会議に滋賀県立大学准教授(当時)の中井均先生をお招きし、鹿背山城跡で『のろし』を実施することの意義や方法などについて御教示を賜った。

以後、他の事業の実施と平行して会議を重ね、『のろし』を揚げる方法については、松葉を燃やす。発煙筒やアドバルーンを利用する。などの案が出され、場所については、主郭、曲輪Ⅲ-1 など様々な意見が出されたが、『のろし』事業の実施については、他の城跡での受け入れ団体探し、費用の確保、準備期間の確保など様々な課題を挙げるに留まり、翌年度以降に持ち越すことに決まった。

平成 25 年度

引き続き、PT 会議では『のろし』事業を議題の一つとして検討を重ねた。鹿背山城跡の整備の際に主郭や曲輪Ⅲ-1 など『のろし』を揚げる位置について模索。特に曲輪Ⅲ-1 については、多聞城の方角の視界を遮る樹木の間伐や剪定などが課題として浮上した。

また、龍王山城や信貴山城と鹿背山城で直接『のろし』のやり取りは地理的に不可能と考えられることや、現在は中学校の敷地となっている多聞城跡で『のろし』を揚げることは容易ではないとの判断から、まずは鹿背山城で揚げた『のろし』を多聞城跡で観察することを当面の目標と定めた。

5 月

他の事業との兼ね合いから『のろし』事業に予算が充てられないため、『のろし』事業の実施は次年度以降に延期とし、その前段階として、「鹿背山城あるいは多聞城で援軍を請う狼煙が揚がった場合、松永軍はどのようなルートで救援に駆けつけたか」ということを考えながら古道を歩く趣旨でのウォーキングイベントの実施を決定。

9月23日

ウォーキングイベントの下見を実施。PTメンバーにて鹿背山城跡麓から多聞城跡までの予定ルートを実際に歩いた。多聞城跡の奈良市立若草中学校内を見学させて頂いたところ、たとえ校舎に上がったとしても周辺の樹木に視界が遮られる現状では鹿背山城の『のろし』を見ることは出来そうにないと、多くのメンバーが感じた。

10月6日

「平成25年度鹿背山城なんでも知ろう連続講座②歴史探訪ウォーク」を実施。PTメンバーおよび本会会員を含め、約70名が参加。PTメンバー（担当：内田）による鹿背山や道中の集落、加世山西道、大仏鉄道などの概要説明と、中井均先生のご講演の後、7班に分かれて鹿背山城跡麓から多聞城跡までの約7.5kmを歩いた。ウォーキング中はPTメンバーが各班のガイドを務め、多聞城跡では中井均先生に現地解説をして頂いた。多聞城下の若草公民館の皆様にもご協力を頂いた。

3月30日（平成26年）

本会役員会にて次年度も引き続き『のろし』事業の実施を目指すことを確認。次年度の事業予定に平成27年2月1日（日）に鹿背山城で『のろし』を揚げることを盛り込む。

平成26年度

4月27日

PT会議にて『のろし』事業の実施を目指すことを再確認。

『のろし』を用いて松永久秀ゆかりの山城同士で交流することを目的として始まった『のろし』事業の計画だったが、計画の立ち上げから3年目に入り、「とにかく本会単独でも鹿背山城で『のろし』を揚げることから始めよう」との意見でまとめ、『実験』の形で鹿背山城から『のろし』を揚げる事が決まる。

5月31日

PT会議にて、『のろし大実験』と題して鹿背山城跡で揚げた『のろし』を南山城地域や奈良市内の各地で観察し報告会を行うことや、本会会員以外からも観察のための協力者を募ることなどが提案された。

11月16日

PT会議にて、『のろし』に発煙筒を使用することを最終決定。

11月21日・23日

11月23日に行われる『琵琶湖一周のろし駅伝』の見学を『近江中世城郭保存団体連絡会』様に打診し、『のろし』に発煙筒を使用している山城として佐和山城（彦根市）をご紹介頂き、見学が実現（見学者：大谷・倉）。のろし駅伝当日には佐和山城研究会の方々から多くのアドバイスを賜った。

12月13日

近江中世城郭保存団体連絡会様の情報交換会・懇親会にお招き頂き、参加。琵琶湖一周のろし駅伝に参加されている複数の団体の皆様との交流の機会を賜り、数々のアドバイスを頂戴した（参加者：倉）。

12月23日

PT会議において『琵琶湖一周のろし駅伝』の見学及び情報交換会・懇親会で得られた情報について報告。また、『のろし』の観察地候補として南山城地域および奈良市周辺の28箇所が提案された。

以後、1月の会議までの間に、木津川市内や奈良市内の観察地候補に比べて現地に不案内な城陽市、京田辺市、精華町に所在する各候補地の現地調査を実施。PT会議にて購入を決定した発煙筒（資料③参照）を電話で販売代理店に注文。12月25日に宅配にて到着。

1月（平成27年）

発煙筒ホルダー（資料③参照）を製作。

1月12日

本番に予定しているものと同じ資材を使って『のろし』揚げの予行演習を実施。発煙の様子を精華町内などから本会会員が確認。

同日の午後に行った最終の打ち合わせ会議にはPTメンバーの他、本会会員外の『のろし』観察協力者様にもご参集頂き、観察地と各観察地担当者を最終決定。当日のスケジュール、準備品、その他注意事項などを確認。

以後、当日までの間に各自で担当観察地の下見を実施。

2月1日（平成27年）

平成26年度鹿背山城なんでも知ろう連続講座⑥『鹿背山城のろし大実験』を開催。

『鹿背山城なんでも知ろう連続講座⑥』当日の予定スケジュール

8:30 のろし揚げ担当者は鹿背山城跡麓の西念寺に集合

9:00 鹿背山城主郭跡にて機材および発煙筒を準備して待機

9:30 のろし観察担当者は各持ち場に到着し観察道具を準備、鹿背山城の方角を確認の上、待機。

※デジタルカメラは必ず持参し、『のろし』の写真をそれぞれ5枚程度、画角などを変えて撮影する。鹿背山城の位置の確認の為、必要に応じてコンパスや双眼鏡（観察時は双眼鏡は使わない。）などを各自で用意して使用する。報告会前にパソコンで撮影画像データを整理する為の時間が限られているので、撮影枚数が多くなりすぎないように注意。

※不測の事態でのろし揚げの時刻を変更する場合は本部機能を兼ねる鹿背山城跡から連絡をまわす為、各観察担当者からは緊急時（遅刻・事故など）を除き鹿背山城跡に対して無闇に連絡をしないこと。

10:00 鹿背山城主郭跡にて、のろし揚げ1回目。

10:00～10:05 白色発煙筒を2本同時に使用して5分間発煙

10:10～10:13 黄色発煙筒を2本同時に使用して3分間発煙

※鹿背山城跡の位置を確認し易くする為に、発煙時間が長く、見えやすいと予想される白色を先に揚げる。

11:00 鹿背山城主郭跡にて、のろし揚げ2回目。

11:00～11:03 黄色発煙筒を2本同時に使用して3分間発煙

11:10～11:15 白色発煙筒を2本同時に使用して5分間発煙

※のろし揚げの完了を確認し易くする為に、発煙時間が長く、見えやすいと予想される白色を後で揚げる。

※気象や太陽の位置などの条件に変化（悪条件の改善など）をつけて観察するため、1時間の時間差をつけて2回の機会を設ける。

※『のろし』が見えなくても、10:20、11:20 を過ぎても連絡がない場合は『のろし』は揚げ終わったものと判断する。

11:30 観察担当者は各自で木津川市役所北別館に向かい、撮影写真のデータをパソコン担当者に提出。報告会場の準備や配布資料等の準備を行う。

※のろし揚げ担当者は、のろし揚げ2回目が終わり次第、資材を片付けて下山し、木津川市役所北別館へ向かう。

※パソコン担当者（森本）は木津川市役所北別館に到着後、各観察担当者から撮影写真データを回収し、報告会に使用するための画像の整理を行う。

※昼食用に、おにぎり2個ずつとお茶を控え室に用意。（担当：岩井）

13:00 講演会・報告会開場…会場：木津川市役所北別館1階
（受付担当：平瀬・八木・山本(美)）

13:30 講演会・報告会開会（司会担当：谷口）
開会挨拶（本会会長 岩井照芳）

13:35 講演『狼煙の意義とおもしろみ』（約70分間）
講師：中井均先生（滋賀県立大学教授）

14:45 休憩（15分間）

15:00 報告会 分析と講評：中井均先生
コーディネーター：岩井照芳

15:00～15:10	鹿背山城のろし大実験の概要説明	（岩井）
15:10～15:13	鹿背山城のろし揚げ	（倉）
15:13～15:16	多聞城跡	（北村）
15:16～15:19	奈良阪	（中井均先生）
15:19～15:22	州見台・梅美台担当	（大久保・奥田(裕)）
15:22～15:32	分析と講評「多聞城との連絡」	（中井均先生）
15:32～15:35	泉木津跡	（岩井・高野）
15:35～15:38	城址公園	（近江のろしの会）
15:38～15:41	染山城跡・吉田城跡	（八木）
15:41～15:51	分析と講評「木津・相楽との連絡」	（中井均先生）
15:51～15:54	岩船寺	（阿部）
15:54～15:57	兎並（加茂町）	（阿部）
15:57～16:00	海住山寺・瓶原（加茂町）	（後藤）
16:00～16:03	和束町木屋	（森本）
16:03～16:13	分析と講評「加茂・和束との連絡」	（中井均先生）
16:13～16:16	鳶ヶ城跡	（大谷）
16:16～16:26	分析と講評「鳶ヶ城との連絡」	（中井均先生）
16:26～16:29	上粕集落	（山本(美)）
16:29～16:32	稲屋妻城跡・吐師浜跡	（西野）

16:32～16:35 下粕城館跡（大北城） （白井）
16:35～16:38 内田城跡 （奥田）
16:38～16:41 口駒ヶ谷城館跡 （谷口）
16:41～16:44 分析と講評「上粕・精華・田辺との連絡」
（中井均先生）
16:44～16:50 予備

16:50 一般参加者からの観察報告
質疑応答
閉会挨拶（本会会長 岩井照芳）

17:00 閉会

17:30 『cafe 月の工房』にて関係者懇親会

2015年2月1日『鹿背山城のろし』のろし揚げ報告書	
のろし揚げ担当者	上野 宏一 , 平瀬 義治 , 倉 敦
発煙場所	鹿背山城主郭跡の中央付近にて、地表面からの高さ約9mの位置で発煙。
のろし発煙状況 写真1, 2 3, 4	<p>1回目白色 午前10時00分に2本の発煙筒から発煙開始。発煙筒は数秒後に高さ9mのポール先端に到達。煙は、風によって概ね東から南の方角に流され、あまり上昇せず。</p> <p>1回目黄色 午前10時15分に発煙を試みるも、2本の発煙筒の内1本が不発。同16分頃までにはポール先端に発煙筒が到達。 不発に加え、着色剤が入っている分、発煙筒1本あたりの煙の量は白色より少なく見えた。また、煙の一部は上昇せずに降ってくるように見えた。着色している分、煙が重くなっていると考えられる。</p> <p>2回目黄色 午前11時00分に発煙を試みるも、用意した発煙筒2本共に不発。2回目の黄色は全く揚げられず。</p> <p>2回目白色 午前11時10分に2本の発煙筒から発煙開始。数秒後にポール先端に到達。1回目と同様に風によって概ね東から南の方角に流されたが、一回目よりも幾らか上昇する期間が多くあったように感じた。</p>
担当者のコメント	<p>感想「黄煙灯」はメーカー不良だったでしょう。予備や変更の手立てを考えておく必要がありますね。</p> <p style="text-align: right;">上野 宏一</p> <p>みんなに届け！ 祈る想いで狼煙を上げ、ロープをしっかりと持っていました。黄色が1本しか煙が出なかったのは残念だった。</p> <p style="text-align: right;">平瀬 義治</p> <p>準備をしている時間に少し雪が降り、鹿背山城主郭から望む西方の景色も霞んで見えたので心配したが、狼煙を揚げている時間は青空も出て、この季節にしては天候のコンディションは良かった。</p> <p>1・2回目ともに数名の見学者がお越しくくださった。次回は見学者に楽しんでもらえる催しなども検討したい。</p> <p>また、今回は狼煙を揚げる方を担当したので、次回は私も鹿背山城から揚がる狼煙を観察してみたい。</p> <p style="text-align: right;">倉 敦</p>


2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書 凡例	
観察者	観察担当者名の記載内容は本人の申告に拠っています。
観察地	編集担当者にて適当な観察地名とその所在地を記入しました。 のろし大実験当日の呼称と異なっている場合があります。
狼煙からの距離	国土地理院の電子国土 Web を利用して計測しました。
選地理由	編集担当者にて記載しました。城館跡地の記述については原則、『京都府中世城館跡調査報告書第3冊』（京都府教育委員会、2014）を参考にしました。 公式な観察地ではない番外の2ヶ所については付近の著名な史跡について簡単に記述しました。
観察地詳細 位置・位置図	位置図は国土地理院地図（電子国土 Web）の地図を加工して使用しています。矢印の付根で観察位置を示し、向きで鹿背山城のろし（鹿背山城主郭跡のほぼ中央）の方角を示しています。 建物内で観察を行った場合や詳細な位置が不明確な場合は文章で説明しています。 鹿背山城跡や他の観察地との位置関係は巻末の資料⑤を参照してください。
肉眼で 観察できた狼煙	観察担当者の申告に基づき、視認（眼鏡等の使用は可）できた煙を示しています。当日時点では野焼きと判別が出来なかった場合も、写真画像で鹿背山城のろしであることが裏付けられた場合は視認出来たものとしています。尚、2回目の黄色煙は発煙筒の不発により揚がっていません。 （例）1回目の白色煙と2回目の白色煙が視認出来、1回目の黄色煙は視認出来なかった場合。 白 10時00分～ 黄 10時15分～ 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント	本実験終了後に各観察者が記入した調査票の内容（観察時の状況、所感、反省）を編集担当者にて打ち直しました。明らかな誤字・脱字については修正していますが、観察者個々の関心や感動を正確に記録する為、文法や語句の用法が不適切と思われた箇所についても一言一句忠実に打ち直しました。 本書34ページ以降には各担当者が撮影した『鹿背山城のろし』の画像を各1～4枚ずつ掲載しています。

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	北村 雅昭
観察地	多聞城跡(奈良市立若草中学校)
狼煙からの距離	約5.95km
選地理由	永禄3年(1561)から同4年にかけて松永久秀は眉間寺山(多聞山)に城を築き、以後、天正元年(1573)12月に織田信長に明け渡すまでの十数年間ここが松永久秀の大和国支配の拠点となりました。その間、大和国の外港である木津を守り、また北方を警戒するために鹿背山城は松永の勢力下で改修されて使用されたと考えられています。
観察地詳細 位置	若草中学校校舎南館3階東端北側廊下窓から観察。 多聞城には4階建ての櫓があったとされており、その推定位置に近く、高さも4階に近づくことを考えてこの観察地点を選んだ。 なお、屋上からの観察を考えていたが、屋上の構造上のことから許可が得られなかった。(観察担当者本人による記述)
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント 写真5	<p>[観察時の状況]</p> <p>観察地点から北を向き10度ほど北東側に鹿背山があると考え観察したが、校地周辺の樹木が大きく成長し、また多聞山に続く佐保山丘陵に民家が建ち、一部分で後方に笠置山地の山々は見えたが、鹿背山は見えない。狼煙も確認できなかった。 樹木や家屋がなくても、鹿背山を直接見ることはできないと思われるが、狼煙の上がり方次第ではそれは見えるのではないかと感じた。 若草公民館の職員1名が観察に協力しに来てくれた。他に、新聞記事を見たと言って若草中学校の卒業生家族が見学に来られた。</p> <p>[所感・反省]</p> <p>やはり多聞城との緊急連絡に意義の大きい狼煙であると思われるので、繋ぎの存在も含めさらに実験による検証を大事にしてもらえればと思います。実験に上がる狼煙の量と質について検討する必要があるのではないのでしょうか。</p>

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	中井 均
観察地	奈良阪(府道 754 号線と旧奈良街道の交差点)
狼煙からの距離	約4.65km
選地理由	多聞城跡からの観察が出来ない場合の代替地として新旧の奈良街道が交差する地点を設定しました。奈良阪でも比較的標高が高く、鹿背山城方向の視界がなるべく建物に遮られない地点を選んでいきます。
観察地詳細 位置図	
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント 写真なし	<ul style="list-style-type: none"> ・観察した時間帯 午前10時 ・観察した狼煙の色 観察地からは見ることはできなかった。 ・観察時の状況 1 観察地からは、雑木林が間にあるため、直接鹿背山を見ることはできなかった。また、当日は曇天で、白い狼煙を肉眼で観察することは不可能であった。周辺に見学者はいなかった。 2 鹿背山城の位置は分からなかった。地図と磁石でおおよその位置を確認した。 3 肉眼で見えなかったなので、双眼鏡を用いたが、やはり曇天で白い煙は確認できなかった。 ・おそらく晴天であれば、白い煙でも確認できたと思われる。

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書					
観察者	大久保 智子 , 奥田 裕美				
観察地	木津川市梅美台公園・木津川市州見台5丁目				
狼煙からの距離	約3.35km・約3.30km				
選地理由	大和・山城国境に近く、古からの往還道が通る梅美台・州見台に観察地を設定しました。今回の実験に先立ち平成25年度に行った鹿背山から多聞城跡へのウォーキングイベントの際に付近を歩きました。				
観察地詳細 位置図	<p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>				
肉眼で 観察できた狼煙	<table border="0"> <tr> <td>白 10時00分～</td> <td>黄 10時15分～</td> </tr> <tr> <td>黄 11時00分～</td> <td>白 11時10分～</td> </tr> </table>	白 10時00分～	黄 10時15分～	黄 11時00分～	白 11時10分～
白 10時00分～	黄 10時15分～				
黄 11時00分～	白 11時10分～				
観察者のコメント 写真6, 7	<p>[観察時の状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■梅美台公園の展望台から観察しました。 ■煙は肉眼で確認できましたが、城山台の山が高かったのと風が強かった為、山の尾根の間から真横に流れていました。 ■鹿背山は城山台の山が高く、城山の影に入っていて鹿背山自体は見えませんでした。 ■見学者は木津のご友人に教えてもらった方が1人いました。 ■2人いたので、1人が(上記地図内)△の位置まで降りて確認してみましたが、ここからは煙は見えませんでした。 <p>[所感・反省など]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■下見の時に地図上で鹿背山の方角を確認しましたが、当日、風が強く真横に煙が流れていたため、実際に煙が上がった位置と自分達が地図上で確認した位置との距離の差が分からなかった。 (観察地点から鹿背山の方角の目測が甘かったのかも) 				

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書					
観察者	岩井 照芳 , 高野 広冢 , 小野 登茂之				
観察地	泉木津跡(木津川市木津、木津川右岸堤防道路)				
狼煙からの距離	約2.45km				
選地理由	軍事上は木津城の存在が知られる木津町の中心部一帯は、木津川の河川港(泉木津)から発展した物流の拠点であり、木津川の渡し場などを擁する水陸交通の要衝でもありました。人や物資が集積される河川港なども、有事の際には狼煙を利用して城や集落、有力寺院などと連絡を取り合ったと想像することができます。				
観察地詳細 位置図	<p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>				
肉眼で 観察できた狼煙	<table border="0"> <tr> <td>白 10 時 00 分～</td> <td>黄 10 時 15 分～</td> </tr> <tr> <td>黄 11 時 00 分～</td> <td>白 11 時 10 分～</td> </tr> </table>	白 10 時 00 分～	黄 10 時 15 分～	黄 11 時 00 分～	白 11 時 10 分～
白 10 時 00 分～	黄 10 時 15 分～				
黄 11 時 00 分～	白 11 時 10 分～				
観察者のコメント	<p>[観察時の状況] 木津のグラウンドより東へ200m位の堤。 岩井と高野、小野さんはもう少し東し方(24号線近く) はっきりと狼煙が見えた。</p>				
写真8	<p>[所感・反省など] やって良かった。感動した。 中世の伝達方法のひとつとして狼煙は利用されていたと感じた。</p>				


2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書					
観察者	近江中世城跡保存団体連絡会(近江のろしの会) 日比 数雄, 田附 清子, 藤塚 久勝 高木 浩二, 分部 綾子				
観察地	城址公園(木津川市木津片山)				
狼煙からの距離	約1.96km				
選地理由	鹿背山城から最も近い中世の山城跡です。その性格や歴史は現在のところ未だ詳らかにされていませんが、城山台住宅地の開発に伴って近年に発掘調査が行われ、平成26年には城址公園として整備されました。木津の戦国時代を物語る代表的な史跡の一つです。				
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>				
肉眼で 観察できた狼煙	<table border="0"> <tr> <td>白 10時00分～</td> <td>黄 10時15分～</td> </tr> <tr> <td>黄 11時00分～</td> <td>白 11時10分～</td> </tr> </table>	白 10時00分～	黄 10時15分～	黄 11時00分～	白 11時10分～
白 10時00分～	黄 10時15分～				
黄 11時00分～	白 11時10分～				
観察者のコメント (次ページへ続く)	<p>■当日の観察は、日比、田附、藤塚、高木、分部の5名で行った。白 10:00と黄 10:15を観察した後、日比、藤塚は鹿背山城を見学に行ったので、白 11:10は田附、高木、分部の3名で観察した。</p> <p>■当日の天候はおおむね晴れ、時々曇り、観察時間少し前から雪がちらつくことがあった。風は微風程度。</p> <p>■観察地から鹿背山城は約2kmと近く、肉眼でもよく見えた。双眼鏡、カメラの望遠機能を使うと、発煙筒で上げていることまでわかるほどよく見えた。</p> <p>■白 10:00 ははっきりと観測できた。風により東に流されるためか、見えるのは断続的だった。黄 10:15 はもやっと、スギ花粉の飛散のように見えた。煙が重いためか高く上がらない。白 11:10 白煙確認。東方向へ風に流れながらも、よく見えた。</p> <p>(以上、近江のろしの会さんによる観察時の状況報告)</p>				
写真9, 10 11, 12					


<p>城址公園観察地 観察者のコメント (続き)</p>	<p>木津山城の主郭自体は伐採されているが、周囲には木があり周りを望むことは出来ない状態。しかし、四隅には整備された展望台があり、そこから周囲を見ることが出来る。</p> <p>鹿背山城が見えるのは北側と西側の2カ所。正面から見えるのは、北側。今回は北側より観測しました。</p> <p>のろしは、3回共観測できました。</p> <p>黄は、風で流されて非常に見難い。また鹿背山の木が邪魔をしてより困難になっていた。</p> <p>白は上方へ上がり簡単に見分けることができた。</p> <p style="text-align: right;">(以上、高木さんによる観察時の状況の報告)</p> <p>以下、各観察者の所感・意見</p> <p>長年、里山保全、地域活性化に向けて取り組みをされ、今回ののろしを媒体に再現実験された場に立ち会うことができ、よかった。</p> <p style="text-align: right;">(日比)</p> <p>関ヶ原ではドラム缶を使う方法なので、発煙筒は初めてだった。遠くからでもよく見え、準備が少なくて済むので、今計画中の竹中半兵衛の居城 菩提山城ではまずこの方法でやってみたいと思う。鹿背山城は遺構の保存・整備状態が良く、竪堀、初期の枡形虎口などわくわく楽しく散策できた。ここを起点にのろし駅伝ができますよう、ご活躍お祈りします。</p> <p style="text-align: right;">(藤塚)</p> <p>琵琶湖一周ののろし駅伝では、自分がのろしを上げることに終始していますので、ゆっくりと観察することができました。ただ煙が上がるだけなのにそれが見えた・見えないで、これだけ楽しめる[のろし駅伝]はやっぱり面白いです。</p> <p style="text-align: right;">(田附)</p> <p>のろしを複数箇所で上げて共に確認できると良いと思う。</p> <p style="text-align: right;">(高木)</p> <p>近江ではのろしの煙(発煙筒ではない)に色をつけたいと検討されている団体があり、黄色は見えにくい、色を付けると煙が重くなるということがよくわかり参考になった。</p> <p>ぜひ、近い将来に近江からつなげてほしい。</p> <p style="text-align: right;">(分部)</p>
--------------------------------------	---

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	八木 和代
観察地	曾根山・染山城跡付近(木津川市相楽)
狼煙からの距離	約4.47km
選地理由	文明7年(1475)に相楽庄で大内勢と大和勢が染山城(曾根山城)を奪い合って合戦したという記録が大乗院寺社雑事記にあり、現在の木津川市相楽曾根山に城があったものと推定されています。詳しい位置や規模、構造は明らかになっていませんが、付近には「城ノ堀」という字名が残っています。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 同担当者による2ヶ所での観察のため、2回目は観察せず。
観察者のコメント	[観察時の状況] 障害物が無く、天候も良く、直ぐに分かりました。 見学者は無し 黄色は肉眼で見えませんでした、カメラの望遠で写ってました。 鹿背山の位置を探す目印として歌姫街道にある一里塚の松を目安とし見易かったです。
写真13, 14	[所感・反省など] この場所を探すのに2日間違う場所で探し、写真を撮り、岩井会長に確認して頂き、前もって目安がついていたので見つける事も出来ましたが、煙が上がる迄は不安でした。 カメラ操作が下手な為、ピンボケの写真になってしまい、すみませんでした。


2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	八木 和代
観察地	北ノ庄・吉田城跡付近(木津川市相楽)
狼煙からの距離	約4.40km
選地理由	木津川市相楽の北ノ庄集落には「城西」「城下」などの字名があり、付近に中世以前の武士の城館があったことを窺わせます。染山城同様に詳細は明らかになっていませんが、南山城の国人同士、あるいは上位の勢力との連絡のために狼煙等が用いられたことが想像されます。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	同担当者による2ヶ所での観察のため、1回目は観察せず。 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント	<p>[観察時の状況] 真東に鹿背山が良く見えました。 見学者は無し。 天気もよく、後ろにある山が(曾根山では少し高く思えた)気にならず鹿背山が良く見えました。</p>
写真15	<p>[所感・反省など] 当日迄にカメラで写す練習しすぎ、当地で数枚写しただけで電池切れ充電はしっかり十分にしないと…反省。 野焼が数ヶ所ありましたが、昔の人はその区別をどうしたのかな～燃焼時間の差かな～と思いながら写真を撮っていました。</p>

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	阿部 雄二
観察地	岩船寺貝吹岩(木津川市加茂町岩船)
狼煙からの距離	約4.82km
選地理由	中世の戦乱では神社や寺、集落そのものが防御施設を備えて城や砦として利用されることが珍しくなかったようで、岩船寺にも、現在の境内と門前町を挟んだ北の丘陵上に堀切や竪堀を伴う複数の平坦地が確認されています。また、御本陣山には松永久秀が陣を置いたとの伝承が残り、鹿背山城と連絡を取り合ったことなども想像が出来ます。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 同担当者による2ヶ所での観察のため、2回目は観察せず。
観察者のコメント	<p>[観察時の状況] 肉眼で観察出来た(白)が、写真ではとらえにくかった。(マニュアルでの望遠が必要) 貝吹岩は標高約300mに位置するため見おろす形になり見えやすい場所であった。</p> <p>[所感・反省など] 貝吹岩より御本陣山は更に20m強、高い場所であるので木津・精華・京田辺が一望出来る。京田辺の処理場の煙が肉眼で十分見える。</p>
写真16	

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	阿部 雄二
観察地	兎並御霊神社(木津川市加茂町兎並)
狼煙からの距離	約3.14km
選地理由	鹿背山城は鹿背山山地の西南部にあり、城跡から西の木津町側へは眺望が利くものの、東方の加茂町側の様子は全く窺うことが出来ません。鹿背山で狼煙を揚げた場合、加茂町平野部の集落からどのように見え、あるいは見えないのかということが、鹿背山城と鹿背山以東の集落との関係を知る手掛かりになり得るかも知れません。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	同担当者による2ヶ所での観察のため、1回目は観察せず。 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント	<p>[観察時の状況] 兎並御霊神社で確認したが手前の大野山がブラインドとなり見えなかった。</p> <p>[所感・反省など] 兎並地区の灯明寺山(224m)に登れば、大野山より約20m高いので見える可能性が大。</p>
写真17	

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	後藤 啓治
観察地	海住山寺(木津川市加茂町例幣)
狼煙からの距離	約3.86km
選地理由	鹿背山城から見た場合、加茂町域の北部にある海住山寺は、同じ山寺の岩船寺とは加茂町の平野部を挟んだ対照的な位置にあり、眺望の良い立地など類似点が多い様に感じます。また、周辺には加茂や上狛と和東方面を結ぶ山道が通っていることも知られており、軍事的に重要な拠点となり得たと考えられます。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 同担当者による2ヶ所での観察のため、2回目は観察せず。
観察者のコメント	<p>[観察時の状況] 見晴らしが非常に良く、鹿背山及び大野山を含む全体が一望出来、又、曇り空?の中にも関わらずのろしは目視で十分観測できました。但し、黄色については、カメラ及び双眼鏡でも確認できなかったのは残念です。 同伴者及び見学者はなく、私1人のみの確認でした。</p> <p>[所感・反省など] 非常に展望の良い位置を事前に確認していたので、迷わずに観察地点で待機し、任務を果たせた事を(後ほどの写真を確認し)満足しています。</p>
写真18	


2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	後藤 啓治
観察地	瓶原・恭仁宮跡(木津川市加茂町例幣)
狼煙からの距離	約2.65km
選地理由	恭仁宮大極殿の基壇跡が残る瓶原には、中世には瓶原七人衆と呼ばれる国人が存在し、恭仁宮跡の発掘調査によって複数箇所で見つかった中世の土塁や堀状の遺構は、彼等の城館を囲んでいたものであると考えられています。鹿背山城と木津川を挟んだ瓶原の国人たちとの関係も考えて見ましょう。
観察地詳細 位置図 国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。	
肉眼で 観察できた狼煙	同担当者による2ヶ所での観察のため、1回目は観察せず。 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント 写真19	<p>[観察時の状況] 鹿背山が大野山で遮られ全く観測は出来ませんでした。 11時より場所をいろいろ移動し、努力したのですが残念です。 (小学校の裏の高台、前後左右) 大谷さんを天神社に迎えに行く役目がありましたので現地を11時15分に離れました。</p> <p>[所感・反省など] 事前に地図を頂いている上、持参品(カメラ、双眼鏡、方位磁石等)の説明があり準備万端には感謝しています。来年の実施?には方位の確認が欠かせないと感じました。</p>

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	森本 幸治
観察地	和東町木屋
狼煙からの距離	約7.35km
選地理由	南山城地域は宇治・伏見を経て京都へ通じ、南は大和国、西は河内国、南東で伊賀国、北東で近江国と接しています。鹿背山城から京都あるいは山城国の外へ「のろし」を繋ぐことは可能かどうか、まずは近江国方面への中継ルートを探るために和東町に観察地点を設定しました。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント 写真20	<p>[観察時の状況] 双眼鏡とカメラのファインダーでのぞいていたので肉眼では見えていないように思う。 木津川から梅谷あたりまで見下せる所だが遠い(7.5km)のでうすい煙はみにくい。 鹿背山城の位置は下見でチェックしていた。(大野山のうしろ)</p> <p>[所感・反省など] 倍の数の「のろし」で派手に上げたら判別しやすいと思います。</p>

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書

観察者	大谷 伸一	
観察地	鳶ヶ城跡(木津川市山城町神童子・木津川市加茂町西)	
狼煙からの距離	約2.67km	
選地理由	<p>鳶ヶ城は鹿背山城のほぼ真北、木津川を挟んだ対岸にあり、主郭の標高318mからは南山城の平野部一帯を見渡すことが出来そうに思えます。既知の史料からは城主や築城主体は明らかにされていませんが、山城国では珍しい畝状空堀を用いた高度な築城技術や、桜峠を抑え遠見の利く立地などから、鹿背山城と同じく、在地領主の域にとどまらない上位勢力の関与が指摘されています。</p>	
観察地詳細 位置図 国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。		
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 11時00分～	黄 10時15分～ 白 11時10分～
観察者のコメント 写真21, 22	<p>[観察時の状況] 鹿背山城の正面に木が茂り木々の隙間から観察。 白色について目視で確認 (のろしか野焼きかはっきりとは判別できず) 他の見学者はなし</p> <p>[所感・反省] 今回ののろし実験に向けた事前準備(観察場所の確認)が直前になり、当日の確認が不十分な所があった。 煙が見えた方向が鹿背山城だという意識になってしまい、のろしではない煙かどうか判断できなかったのが反省点です。 今後ものろしイベントを続けて、今回の反省点を改善したい。近江ののろしリレーとの連携にはハードルが高いが近隣との連携ができないか考えたい。</p>	

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	山本 美和
観察地	上狛集落付近(木津川市山城町上狛)
狼煙からの距離	約2.03km
選地理由	濠で囲まれた集落の中心には領主であった狛氏の居館があったとされ、現在は居館の確かな痕跡を地上に確認することは出来ませんが、集落内の大井戸付近が居館の跡と伝わっています。約2km北西にある標高186mの山頂には東山城と呼ばれ狛氏の詰城とされる東山城の跡が残っていますが、樹木により鹿背山城の方角を見ることが出来ず、今回の観察は集落付近でのみ行いました。
観察地詳細 位置図	 <p>上狛環濠集落跡</p> <p>上狛駅</p> <p>観察地点</p> <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	白 10 時 00 分～ 黄 10 時 15 分～ 黄 11 時 00 分～ 白 11 時 10 分～
観察者のコメント	<p>[観察時の状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影方向が逆光であったため、カメラの画面から確認できなかった。方位磁石を持っていきましたが、本当にこちらが良いのか不安であったため、煙を見た瞬間、思わず東の方向へ走ってしまいました。(本当は上狛駅よりも西側なのですが・・・) ・肉眼ではっきり見え、周囲の野焼きの煙は薄くぼんやりと広がっていくのに対し、のろしは細いですが濃い白色の煙がのぼっていくのが見えました。 <p>[所感・反省など]</p> <p>次回のろし実験を行われる場合は、一度予行演習をしてみたいかがでしょうか。</p> <p>観察地から鹿背山城の方角がわかりませんでした。</p>
写真23, 24 25	

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	西野 篤
観察地	稲屋妻城跡(精華町北稻八間、北稻配水池付近)
狼煙からの距離	約6.21km
選地理由	稲屋妻は、明応2年(1493)、いわゆる山城国一揆のうち、山城国守護・伊勢氏による統治に最後まで抵抗した国人衆が立て籠もり、討伐軍の古市勢によって多数が討ち取られた『山城国一揆終焉の地』として知られています。国人衆が立て籠もった稲屋妻城跡地には複数の説があり明らかではありませんが、城山の字名が残る北稻配水池付近が最もよく知られています。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 同担当者による2ヶ所での観察のため、2回目は観察せず。
観察者のコメント	<p>[観察時の状況]</p> <p>①遠方であり鹿背山城の位置が明確に確定するのが困難であった。 ②見学者無し ③野焼の白煙も複数上がっており、狼煙との判別が困難であった。</p> <p>[所感・反省など]</p> <p>・狼煙がどのように上がるか予備知識が必要であった。 ・当初、政ヶ谷城跡(稲屋妻城の推定地の1つ)であったが、岩井会長と現場調査の結果、場所が変更になった。</p>
写真26	

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	西野 篤
観察地	吐師浜跡付近(木津川市吐師、木津川左岸堤防道路)
狼煙からの距離	約3.73km
選地理由	吐師の集落は木津川を使った舟運と、主に郡山街道を使った陸運とを中継する港町として発展してきたと考えられています。木津川を代表する浜として江戸時代には木津川六ヶ浜のひとつに数えられており、おそらくは中世以前から重要な物資輸送の拠点の一つであったと想像されます。
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	同担当者による2ヶ所での観察のため、1回目は観察せず。 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント 写真27	<p>[観察時の状況]</p> <p>①見通し良好 ②見学者無し ③白煙は流されていたが、はっきりと観察できた。</p>

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書

観察者	白井 繁夫	
観察地	下狛城館跡付近(精華町下狛)	
狼煙からの距離	約6.02km	
選地理由	<p>下狛(字)拝殿で行われた発掘調査では、幅約9m以上、深さ約2mの堀跡が見つかっており、周囲の地割などと併せ、堀を巡らせた方形の城館の存在が推定されており、下狛の国人・大北氏の居館跡と考えられています。また歴史的には、応仁・文明の乱の際に南山城に侵攻した大内氏の軍勢が下狛に陣を構えたことが知られています。</p>	
観察地詳細 位置図	<p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>	
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 11時00分～	黄 10時15分～ 白 11時10分～
観察者のコメント 写真28	<p>[観察時の状況] 鹿背山を正確に知らなかった為、磁石で方角を定めた。低地(平地)から山波を遠望すると、木津川の水蒸気か山々の中腹まで霧がかかり、野焼きの煙と見間違えたが、10時過ぎ、肉眼で白い煙が見えた。しかし雲が切れると逆光となりカメラで撮れず、11時を待つ。(黄色の煙は見えず)白い煙(のろし)見えたので、カメラ10倍で焦点を合わせた時、近鉄電車が2回(上・下線/回)通過し、手間どっている間にシャッターチャンスを逸しました。まことに面目なき次第です。</p> <p>[所感・反省など] ・下見に行った時、曇でしたので、逆光の対策おこりました。 ・踏切の近くの為(電車、車等)より高所をさがす必要があった。 ・カメラを固定する三脚等の準備をしていなかった。肉眼でのろしを確認しましたが、役目を果せず上述の次第反省しています。</p>	

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書					
観察者	谷口 克己				
観察地	口駒ヶ谷城館跡付近(京田辺市三山木口駒ヶ谷)				
狼煙からの距離	約8.45km				
選地理由	口駒ヶ谷遺跡では南北朝期の城館と想定される曲輪や堀切、土塁などの遺構が見つかっています。その他、城陽市域や京田辺市域に観察地点を求めて水主城跡、田辺城跡、興戸城跡、南山城跡など複数の城館遺跡の下見を行いました。往時とは地形や環境が変化していることなどもあり、鹿背山城跡を見通すことが出来ませんでした。				
観察地詳細 位置図	 <p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>				
肉眼で 観察できた狼煙	<table border="0"> <tr> <td>白 10時00分～</td> <td>黄 10時15分～</td> </tr> <tr> <td>黄 11時00分～</td> <td>白 11時10分～</td> </tr> </table>	白 10時00分～	黄 10時15分～	黄 11時00分～	白 11時10分～
白 10時00分～	黄 10時15分～				
黄 11時00分～	白 11時10分～				
観察者のコメント 写真29	<p>[観察時の状況] 口駒ヶ谷公園横の高台送電線鉄塔下で南南東方向山並みを9時30分から観察準備をしましたがすでに数箇所白い煙(野焼き?)が昇っており、鹿背山城の正確な位置を確認できずまま、10時と11時15分にその時点で昇った白い狼煙は確認できましたが黄色の煙は確認できませんでした。尚、時間経過で(逆光・雲蔭・うす曇)等々天候変化で少し見難かった。 (あちこちでの白い煙は10時前から11時過ぎまで昇っていました) 私の他3名(京田辺市の山城愛好家)で鹿背山城狼煙を確認しました。</p> <p>[反省など] 1、観察地から観察前に正確な鹿背山城が確認出来るような方法を講じて実施が必要と思います。 2、遠くからの観察は野焼き?等であちこち白い煙が昇り確認しづらい為開催時期の検討必要では。 3、狼煙の煙量も多くしてもう少し長い時間確認できれば良かったのでは。</p>				

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	奥田 芳明 , 奥田 通子
観察地	内田城跡・嶽山東側山腹(精華町東畑)
狼煙からの距離	約9.47km
選地理由	精華町東畑と京田辺市打田にまたがる嶽山の山頂から南北の尾根筋にかけて複数の平坦面が存在し、地元では砦跡として伝承されているそうです。嶽山の西麓すぐの峠を越えた生駒市高山町には鹿背山城と同じく興福寺や松永久秀に従った高山城の存在が知られ、仮にこの二点で狼煙による連絡をとるとすれば、内田城が中継地点としてもっとも相応しい場所であると想定できます。
観察地詳細 位置図	<p>国土地理院地図 (電子国土 Web) の画像を加工して 使用しています。</p>
肉眼で 観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント	<p>[観察時の状況] 無風快晴により嶽山の麓から白色は東方にはっきり見えた。 白色は写真の通りである。 (※1回目、2回目とも)黄色は全く見えなかった。</p>
写真30	<p>[所感・反省など] 日常生活を離れロマンを感じるいい企画であったと思われまます。 一般の人達への熟知の方法がもう少しなされれば…と残念に思う点でした。</p>

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	山本 正來
観察地	精華町大字山田小字樋ノ口
狼煙からの距離	約5.24km
観察地周辺について	平成3年(1991)に観察地の東方約300mにある樋ノ口遺跡で行われた京奈和自動車道の建設に伴う発掘調査で奈良時代の多量の遺物や奈良時代から平安時代初期の遺構などが見つかり、離宮あるいは寺院(山田寺)の跡ではないかと考えられています。いずれにせよ奈良時代以来の歴史や由緒ある土地と想像できます。 参照『京都府埋蔵文化財情報第42号』[(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、1991]
観察地詳細位置図 国土地理院地図(電子国土 Web)の画像を加工して使用しています。	
肉眼で観察した狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～
観察者のコメント 写真なし	前半の時間帯を確認。肉眼でたちのぼる白煙を確認した。黄色煙については見えなかった。 観察地点から見た実施ポイント付近は、ややもやっていたので、白煙以外の色は確認できなかった。

2015年2月1日『鹿背山城のろし』観察報告書	
観察者	森田 省三
観察地	奈良市川上町
狼煙からの距離	約4.5～5.5km
観察地周辺について	<p>観察地・奈良市川上町の東に接する中ノ川町には、明治に廃されるまで中川寺成身院という興福寺の子院があり、現在も坊舎の跡や開山・実範上人の御廟塔とされる石塔が残っているそうです。この中川寺成身院は鹿背山と縁が深く、大乘院寺社雑事記には『成身院賀世山二出帳云々』(文明11年10月3日)や『十六日成身院ハ自加世山移中川寺云々』(文明11年10月18日)などの記述がある他、鹿背山の西念寺には中川寺の本尊だったと考えられる薬師如来像が伝わっています。</p> <p>参照『木津町の歴史』[木津町(現木津川市)、1993]</p>
観察地位置	木津川市梅美台から府県境を越えた奈良市川上町付近の道路上から観察。地図上での鹿背山からの方角は真南よりも数度東に振れる。
肉眼で観察できた狼煙	白 10時00分～ 黄 10時15分～ 黄 11時00分～ 白 11時10分～
観察者のコメント	鹿背山城より東南に当たりのろしが背になり見えなかった。
写真なし	もう少し圧力をかけ煙が真上に上げることが出来ないか？